

登録コード	L1440400	開講年度	2026				
担当教員	前田 豊 他			副担当			
授業科目	社会学発展演習						
英文授業名	Sociology: Advanced Seminar						
授業タイトル	社会学のリサーチデザイン						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・5 時限
講義室	人文 2 1 2 講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2 0 2 2 Lカリ, 2 0 2 1 Lカリ, 2 0 2 0 Lカリ						
	【2022年度以前加わった対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			社会学的想像力を涵養するとともに、それを用いて自らの問いを構築することができるようになる。			
	【2022年度以前加わった対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			先行研究から現在の学問水準を知るとともに、先行研究を批判的に捉えて、自らの問いを構築することができるようになる。			
	【2022年度以前加わった対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー			自らの調べたことや、仮説・分析結果などを的確に表現し報告するとともに、他者の同様の報告に対して適切なコメントをする能力を身につける。			
	2 0 2 6 Lカリ, 2 0 2 5 Lカリ, 2 0 2 4 Lカリ, 2 0 2 3 Lカリ						
	【2023年度以降加わった対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			先行研究から現在の学問水準を知るとともに、先行研究を批判的に捉えて、自らの問いを構築することができるようになる。			
	【2023年度以降加わった対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			自らの調べたことや、仮説・分析結果などを的確に表現し報告するとともに、他者の同様の報告に対して適切なコメントをする能力を身につける。			
授業で学べる「テーマ」	地域運営、多文化協働、キャリア						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	研究のテーマを自ら立て、そのテーマに関わる領域の研究動向と先行研究について吟味し、自らが設計した経験的調査を遂行し、論文を完成させるために必要な研究デザイン能力を養成することを目標とする。研究デザイン能力の養成を主眼として、受講者は最初に自らの関心領域やテーマを設定し、その領域やテーマにおける先行研究のリサーチデザインについて批判的に検討する。検討の成果を発表してもらう。受講者は、研究発表を行うことは当然として、発表者に対しての質問・コメントを必ずしてもらう。司会は受講者で分担して行ってもらう。						
授業計画	第1回：インストラクションおよびスケジュールの説明 第2回：研究対象に関する調査報告とディスカッション：3年生 第3回：研究対象に関する調査報告とディスカッション：3年生 第4回：研究対象に関する調査報告とディスカッション：3年生 第5回：研究対象に関する調査報告とディスカッション：2年生 第6回：研究対象に関する調査報告とディスカッション：2年生 第7回：研究対象に関する調査報告とディスカッション：2年生 第8回：研究対象とリサーチデザイン（中間的総括） 第9回：研究主題に関する調査報告とディスカッション：3年生 第10回：研究主題に関する調査報告とディスカッション：3年生 第11回：研究主題に関する調査報告とディスカッション：3年生 第12回：研究主題に関する調査報告とディスカッション：2年生 第13回：研究主題に関する調査報告とディスカッション：2年生 第14回：研究主題に関する調査報告とディスカッション：2年生 第15回：研究主題とリサーチデザイン、授業アンケート （なお、予定は受講者の学年別人数に応じて変わる可能性がある。） 定期試験なし						
成績評価の方法	各回の発表及びディスカッションにおけるコメント内容（50%）と最終レポート（50%）を対象とし、自らが設計した経験的調査を遂行し、論文を完成させるために必要な研究デザイン能力が涵養されているかを評価する。						
成績評価の基準	学年によって、問いや仮説のクオリティ、背景となる理論や先行研究のふまえ方、調査設計と実施、分析結果と解釈、考察等の一連の過程において、求められる到達点と到達と見なしうる基準が異なる。その到達点と到達基準に達しているか、また、コメントの状況によって判断する。それらが高度に達成できていれば卓越、いずれもが最低限度であれば水準と判断する。						
事前事後学習の内容	報告前には、内容として求められる到達点と到達基準を目指して準備するとともに、他者に理解してもらいやすいように工夫する。報告後には、学生同士や教員のコメントをふまえて改善する。						
履修上の注意	特になし						
質問、相談への対応	オフィスアワーに担当教員の研究室を訪れ、授業時間外に質問・相談を行うことができる。授業終了後に口頭で、またはメールで事前予約されたい。メールでの質問・相談に対する返答も随時行うが、受講者全員に共有することが有益と判断される場合には、授業時間中に返答を行う場合もある。						

質問、相談への対応	メールアドレスは ymaeda076[at]shinshu-u.ac.jp
教科書	使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。